

2022年1月

公益社団法人日本産婦人科医会医療安全部

医療安全部では、感染妊産婦の発生状況、重症度の割合、感染管理中の分娩状況など調査する目的で、2020年の調査に引き続き、2021年7月から8月に「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)についての実態調査」(2020年7月～2021年6月分)を行いました。

この時期はCOVID-19の第5波の時期にもありましたが、多くの皆様にご回答をいただきありがとうございました。集まったデータについての解析結果を以下のようにまとめましたので、ご報告させていただきます。各調査項目についての結果の詳細につきましてはホームページにも掲載しておりますのでご参照ください。

今後、再びCOVID-19の再拡大によって混乱した状況の発生が危惧されています。今回お送りいたします抜粋版とアンケート調査結果をご活用いただき、今後のCOVID-19の対策にお役立ていただけたら有難く存じます。

記

調査結果の概要：

- 分娩取扱い医療機関 2,135 施設を対象に行われ、1,288 施設(回収率 60%)から回答を得た。
- COVID-19 と確定診断された妊婦が妊娠 37 週以降に陣痛発来・破水した場合の分娩様式は、大多数が感染適応の帝王切開であったが、濃厚接触者では、その対応は分かれた。
- 分娩取り扱い施設の約半数が、COVID-19 のスクリーニング検査を実施しており、その陽性率は 0.08%であった。
- 2020 年 7 月-2021 年 6 月(第 2 から 4 波)までの 12 か月間に、1,531 人の陽性妊産婦の報告があり、おおよその有病率は 0.6% [1531/255,495 (報告施設の分娩数)]であった。
- 第 2 から 4 波へと本邦の感染者数の増加にともなって、妊婦の感染者数も増加した。
- 妊産婦の感染経路は、家庭内感染が 50%と最多であった。
- 有症状の妊婦の 8%に酸素投与を要し、7%が重症(呼吸不全)であり、高年齢、妊娠末期の妊産婦で重症化しやすい傾向があった。妊産婦死亡事例の報告はなかった。
- 感染妊婦で分娩管理を要する例が 216 人いたが、出生児への感染の報告は無かった。

本調査からの提言：

- COVID-19 感染拡大の第 2 波、第 3 波、第 4 波と感染妊婦の数は増加している。感染妊婦の管理を行う産科医療施設の分娩数の 1%に感染妊婦が発生すると考え、病床の確保を行う必要がある。
- 第 2 波、第 3 波、第 4 波と次第に重症化する妊婦の割合が増加しており、次の感染拡大の局面では、さらなる産科医療の逼迫に警戒する必要がある。
- 妊婦の COVID-19 感染では、妊娠末期の発症する例、分娩管理を要する例が増加傾向にあり、感染妊婦の分娩に対応できる施設の確保が必要である。

以上